

『廃寺は語る！』よみがえる鹿児島県の仏教文化事業 ～光台寺跡発掘調査・ワクワク考古楽授業支援～

埋蔵文化財センター

『廃寺は語る！』よみがえる鹿児島県の 仏教文化事業とは

鹿児島県の近代化の歴史を語る上で欠かせないテーマの1つに「廃仏毀釈」があります。

「廃仏毀釈」とは、明治政府が明治元(1868)年に出した神仏分離令を発端に起こった仏教排斥運動です。本県においては、激しい廃仏毀釈運動が展開され、当時の寺院(1,066か所)がすべて破壊され廃寺となり、鹿児島県の仏教文化は壊滅的なダメージを受けることになりました。

本事業は、発掘調査を実施することで近代化の流れの一方で失われた寺院の状況を解明しその存在や歴史的価値をよみがえらせ、調査成果を学校の授業で活用して児童生徒の郷土を誇り、愛する心の醸成などに資することを目的としています。

■ 本年度の発掘調査事業

本年度は、指宿市岩本に所在する「光台寺跡」の発掘調査を行いました。

光台寺は、天璋院篤姫で有名な今和泉島津家の菩提寺です。宝暦7(1757)年に創建され、明治2(1869)年の廃仏毀釈により打ち壊され廃寺となりました。それ以降所在地は不明なままとなっていました。文献調査や指宿市教育委員会からの情報提供により、現在の今和泉島津家墓所の近くにあった可能性が浮上りました。

調査の結果、建物跡の発見には至りませんでした。江戸時代に造られたと思われる石垣が確認されたことや当時の瓦や白薩摩、琉球陶器などが出土したことから、付近に光台寺があった可能性が高いことが分かりました。



当時の石垣と調査の様子

■ 本年度のワクワク考古楽授業支援

県内各地の小・中・高等学校に埋蔵文化財センターの専門職員がお伺いして授業支援を行っています。11月1日現在で、小学校8校、高等学校2校で実施しています。

指宿市立今和泉小学校では、学校の近くの光台寺跡で出土した遺物に実際に触れたり当時の絵図からどのような建物だったのか考えたりしました。



指宿市立今和泉小学校での授業の様子

指宿商業高校では、実際に光台寺跡の発掘現場で、当時の石垣や発掘作業の様子、出土遺物を見学しました。



遺跡見学の様子

埋蔵文化財を自分の目で見たり、実際に触れたりすることにより、児童生徒の興味関心が高まり、さらには郷土愛が培われます。社会科をはじめ、総合的な学習など、様々な教科・領域で埋蔵文化財を活用した授業を行っていきたいと考えています。